

134

①基準線の作成(図38)

まず作図位置を決め、細い一点鎖線でGLを作成する。矩計図では基礎も描くので、GLの下にもスペースを確保する。

GL線を複写(オフセット)して、基礎梁下端、1FL、2FL、RFL、パラペット上端など高さの基準線を配置する。

基準線は専用のレイヤをつくると作業しやすい。

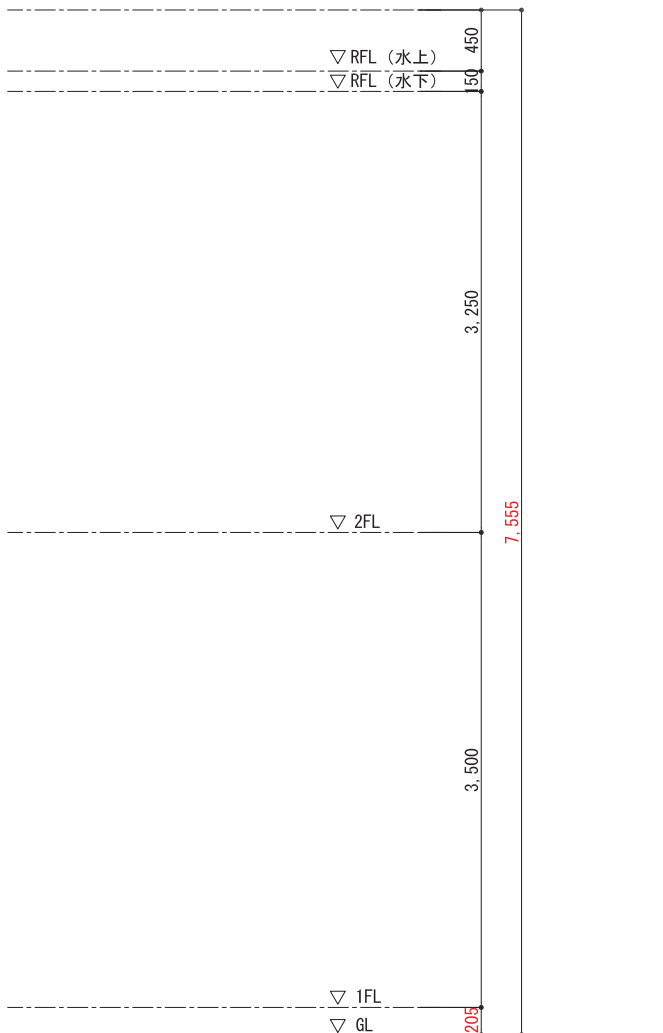


図38 基準線の作成

②通り芯・破断線の作成(図39)

細い一点鎖線でY1通りの通り芯を記入する。

次に、Y1通りの通り芯から左に2,000mm程度の位置に、図面を切り取る位置の補助線(破断線)を描く。CADによる図面作成では全体を作図したのち、最後に切断部分を決めて一括して切り取ることもできるが、ここでは始めに破断線的位置を決め、作図範囲の目安をあらかじめ付けておく。

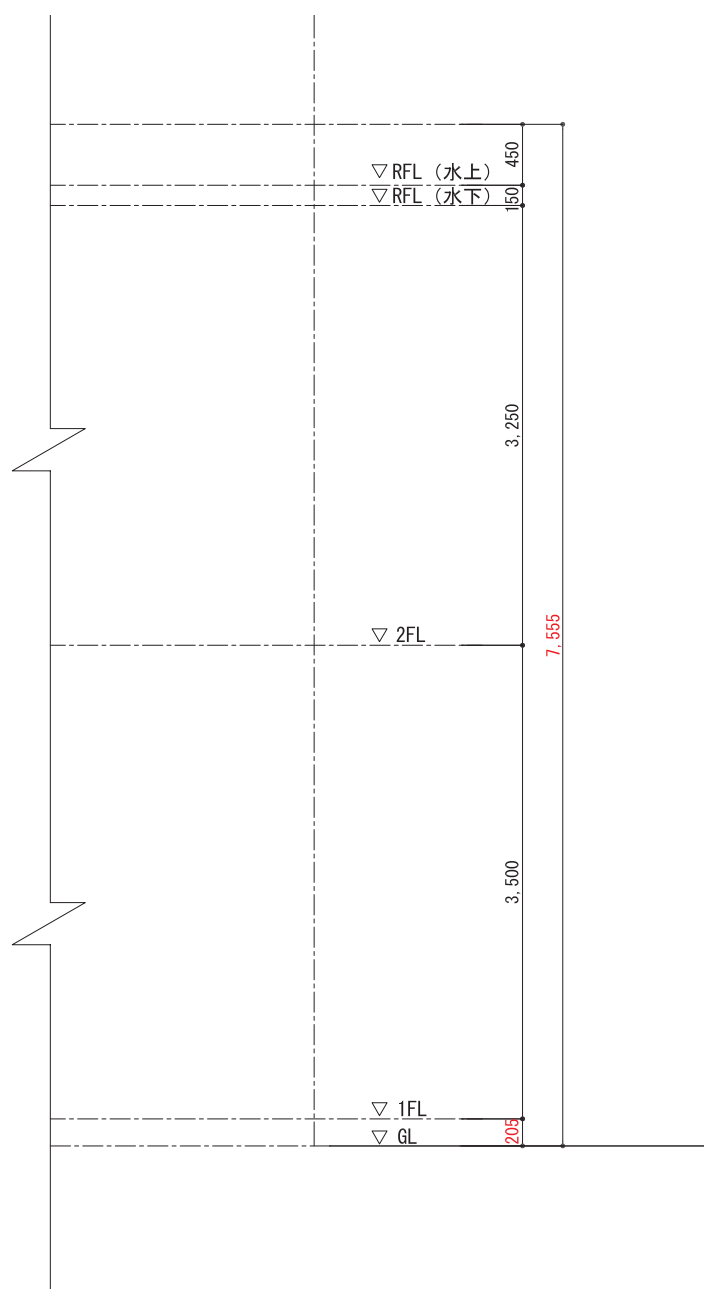


図39 通り芯・破断線の作成

⑦ 下地・構成材の作成 (図46)

天井内の野縁、野縁受け、吊りボルトを作図する。

配置間隔が一定の吊りボルトや野縁は1つだけ作成して、連続複写 (配列複写) するとよい。

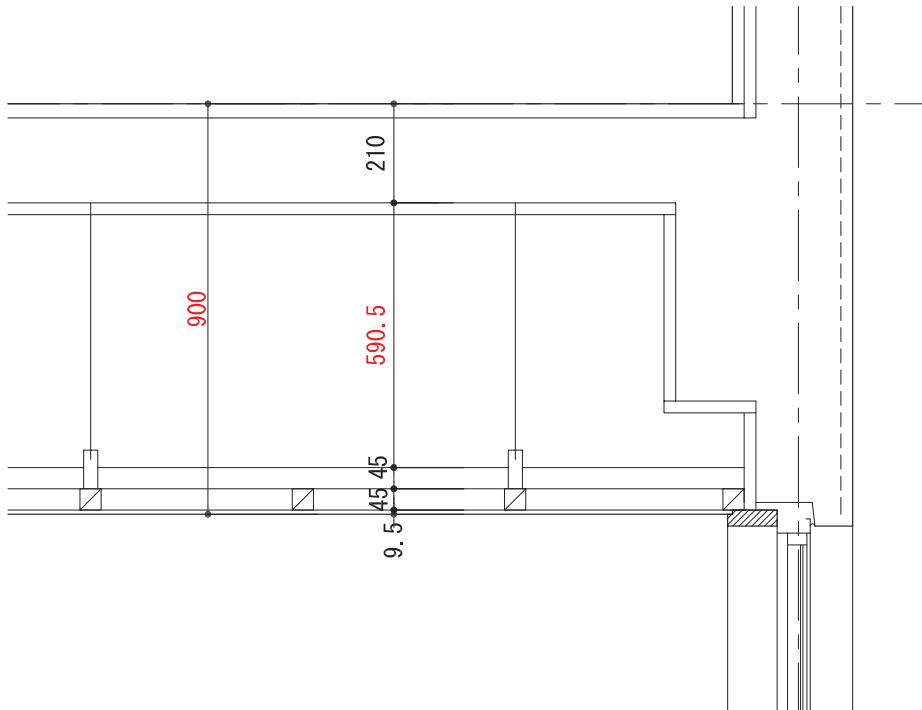


図46 下地・構成材の作成

⑩ 寸法線の作成 (図49)

寸法線を記入する。寸法線は、建物全体の大きな寸法から順番に、各階の床高、天井高、開口高などの細部の寸法を入れていく。また、各部材や仕上げ厚の寸法も必要に応じて記入する。

寸法は平面や断面と同じスタイルとし、ほかの図形要素とは別のレイヤにしておく。

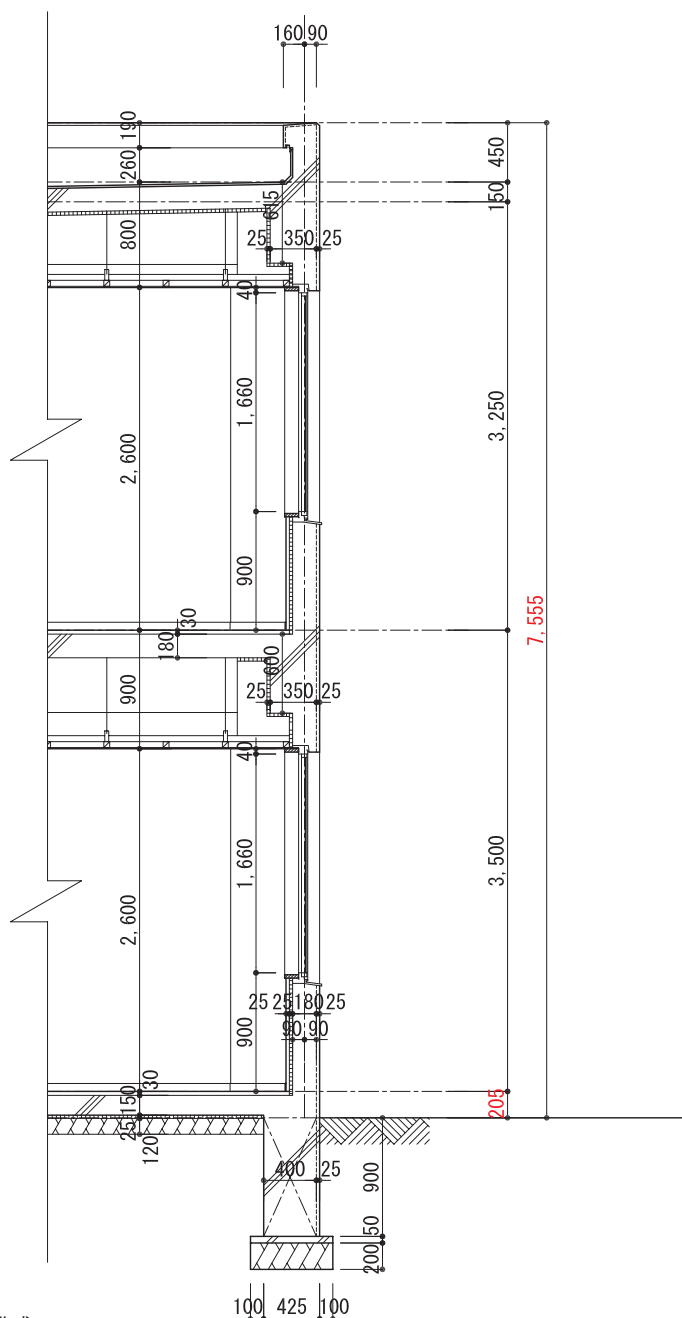


図49 寸法線の作成

⑪ 文字の記入 (図50)

断面で表示されている各部の仕上げ材や構成材、厚さ、ピッチなどを書き入れる。また、水勾配や室名、FL、GL、通り芯符号など、図面に必要な文字を記入する。

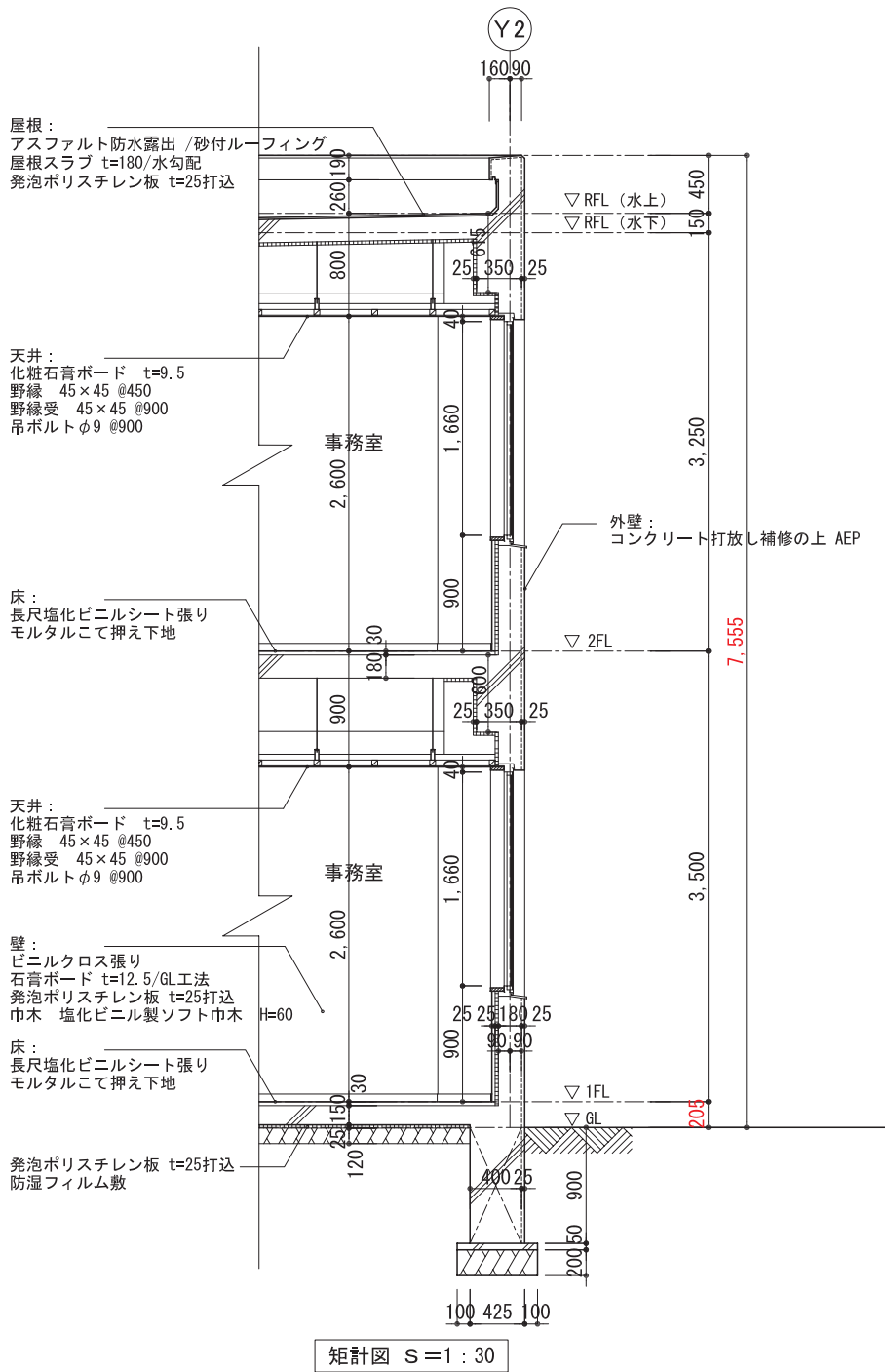


図50 文字の記入

⑫レイアウト調整(図51)

図面名称や縮尺などの文字を記入する。

最後に、図面チェックを行う。チェックする内容は平面図と同様である。

また、必要に応じてレイアウトを調整する。

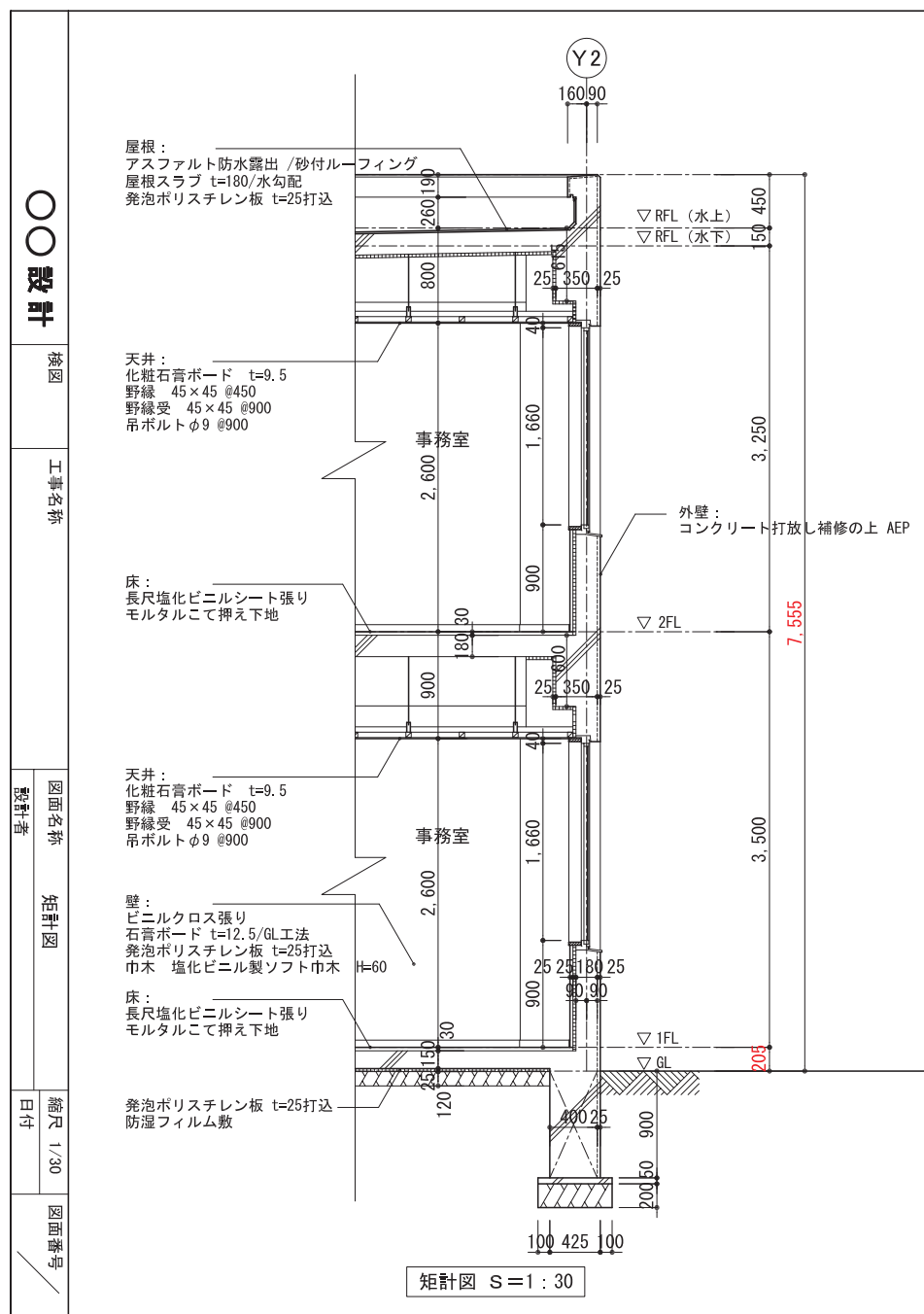


図51 レイアウト調整